

福島 3.11 の問いかけ

◆2023年12月5日(火)

●午後3時10分～午後4時50分

場所／西宮上ヶ原キャンパス

B号館 202号教室

◆ 講師／ イ ホン ギ
李 洪 起 氏
(映画監督)

*本講演会では、映画『福島の未来 -0.23μSv-』を上映後、トークセッションを行います。

*本講演会では、手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています(映画上映中は除く)。

■映画『福島の未来 -0.23μSv-』作品紹介

21世紀最大の災禍と呼ばれた福島原発事故はその後…
マスコミの報道に疑念を抱き、自ら測定器で町中の放射線量を測る主婦の柴田さん。日本にはもう安全な場所はないと、孫の将来のことを憂い顔を曇らせる黒田さん。
原発事故の後遺症は今も癒えることなく、いつ終わるのか予測すらも不可能である。日を追うごとに増す不安と恐怖から逃れられない生活を依然として強いられている。誰も触れようとしないう福島のおぞましい未来を探ろうと集まった人々がいた。17人の平凡な市民は死の地へと向かう危険な旅路についたのだった。
ウクライナ政府の特別な許可があり、ついにチェルノブイリ原発事故の現場に入った。衝撃的であった。人口5万にのぼる先端都市は廃墟と化し、一部の地域では許容値の300倍を超える放射線量が検出され驚愕した。強制移住を余儀なくされた住民は死の恐怖に怯え、故郷を追われ苦しみにあえいでいた。被爆2世となった幼い子どもたちは病名のわからない苦痛に襲われていた。28年が経った今もおチェルノブイリの後遺症は根深い。
一方で、福島は一体どこに向かっているのだろうか。
果たして日本に突破口はあるのだろうか。

■監督紹介

ソウル生まれ。TVプロデューサー兼ドキュメンタリー映画監督。
前韓国独立プロデューサー協会理事長。1990年代より激変した韓国社会で浮き彫りになった問題に斬り込んだ。各時代を象徴する人物の生き方を通して、韓国社会が抱える苦悩を投影した密度濃い作品を生んだ。
代表作は『卍行』(1997)『同行』(2002)『共行』(2006)『未行』(2009)などがあり、『順天(Splendid But Sad days)』は第25回韓国PD大賞作品賞をはじめ、韓国独立PD大賞、KIPA撮影賞(2012)などを受賞。釜山国際映画祭ワイドアングル部門招待(2013)、フランスFocus Coree映画祭グランプリ受賞(2014)、カナダモントリオール国際映画祭公式招待(2014)、日本ではNHKでオンエアされた。2013年には福島とチェルノブイリ原発事故を新しい角度から照射した『福島の未来 -0.23μSv-: Fukushima, Is there a Way Out?』が日本と韓国で劇場公開された。
現在は京都に在住し、主に韓日関係の問題を深層的に掘り下げた作品を制作している。

*車いすでご来場の方は、お席の配慮等をいたしますので事前にご連絡ください。

関西学院大学人権教育研究室

Tel 0798-54-6720 / Mail human-rights@kwansei.ac.jp

総合テーマ：
「インクルーシブな
社会の実現を
目指して」
(2020～2024年度)

